ＪＩＣＡ保健医療タスクニュースレター

「保健だより」第55号

☆今号のトピック☆

2021年8月30日発行

①JICA世界保健医療イニシアティブ
②栄養サミットとJICAの取組み

第54号が発行された2020年3月から現在まで、新型コロナウイルス感染症の拡大はJICA事業にも大きな影響を及ぼしました。通常の活動を継続していくとともに、新たに新型コロナウイルス感染症への緊急的な対応を実施した協力事業もたくさんありました。事業にご協力頂いた、また現在もご協力頂いている皆様には心から感謝申し上げます。

今月号では、保健医療分野における新たな枠組みである、「JICA世界保健医療イニシアティブ」を取り上げ、今後の保健医療分野における協力について考えていきたいと思います。また、今年12月に東京で開催が予定されている栄養サミットについてもご紹介いたします。他にも、メキシコにおける高齢化対策への取り組みや、連載企画の「世界銀行のヒューマンキャピタルプロジェクトとJICAの取り組み」や「私と虫」等、盛りだくさんの内容となっております。尚、一部執筆より一年近く経過している記事がございます事ご了承ください。

目次

◆絶賛推進中！“JICA世界保健医療イニシアティブ”！ 1

◆栄養サミットの概要およびJICAの取組み 3

◆連載：世界銀行のヒューマンキャピタルプロジェクトとJICAの取り組み　第2回
ヒューマンキャピタル指数（HCI）とJICAと世銀の連携 4

◆JICA海外協力隊員向け！
新型コロナウイルス感染症予防・啓発研修を開催中！ 5

◆連載：私と虫　第2回
大洋州全域におけるリンパ系フィラリア症の制圧に向けて
― JICAによる息の長い協力とその成果 ― 5

◆メキシコ高齢化セミナー報告 6

◆ゆくひと くるひと 6

◆保健グループ　What's Up 7

◆編集後記 7

絶賛推進中！ 今号のトピック①
“JICA世界保健医療イニシアティブ”！

最初に･･･JICA世界保健医療イニシアティブとは？

新型コロナウイルス感染症はグローバル化を背景に短期間で全世界に拡大し、人々の命と健康を脅かすだけでなく、経済活動の停滞や、それに伴う貧困に苦しむ人の増加、子どもたちの学習機会の喪失など、将来世代にも影響を及ぼしています。これまでJICAは「人間の安全保障」と「質の高い成長」の実現のため、世界約150か国に協力してきました。この経験をもとに、JICAは命を救うための協力を強化すべく、2021年「JICA世界保健医療イニシアティブ」を始動させました。感染症から人々を守ることができる強靭な保健医療システムを構築しUHCの達成を目指して、「予防」、「警戒・研究」、「治療」、の強化により一層取り組んでいきます！

JICAの新型コロナウイルス感染症対策協力には どんなものがあるの？

【ベトナムの事例】

JICAが長年協力してきた国立衛生疫学研究所（NIHE）は、これまで築いてきた医療従事者とのネットワークを生かし、流行初期から地方でも迅速なPCR検査体制を整えました。また、これまで協力してきた病院では、感染対策の技術指導により院内感染対策を徹底した結果、新型コロナ患者を受け入れつつ、通常の診断・治療も継続できています。更に、中核病院を拠点に地方病院に対する指導体制ができていたことから、都市部での新型コロナ対応の知見が迅速に地方にも波及しました。

2003年に開始したJICAの支援により、ワクチン・生物製剤研究・製造センター（POLYVAC）は麻疹等のワクチンの製造能力を強化してきました。その技術や経験を活かし、現在同センターは国産COVID-19ワクチンの開発・製造にも取り組んでいます。

これらに加え、水・衛生施設へのアクセス向上や「健康と命のための手洗い運動*」など様々なアプローチにより、社会全体での「予防」の強化にも取り組んでいます。

このようにベトナムでは、予防、警戒・研究、治療の強化を一体的に協力することで、感染症に対する強靭な保健医療体制の構築に大きな貢献をしてきています。

*「健康と命のための手洗い運動」の詳細についてはこちら。

【感染防護用物資等の迅速な供与】

保健医療分野に留まることなく、教育、水・衛生、交通等幅広い社会サービスの継続や経済・社会の安定化に貢献するよう、治療のための医療機材、検査・警戒のために必要な検査機材や試薬、予防のための手指消毒剤、個人防護具（PPE：Personal Protective Equipment）等を供与してきました。

これまでに、資機材の供与とともに技術的支援を含めた協力及び資金協力を計70 か国に対して実施しています。

（新型コロナウイルス感染症対策協力推進室　米田裕香、吉津智慧）

こんにちは！ わたしたちが新コロ室です！

JICA世界保健医療イニシアティブ推進の旗振り役として、2020年10月より人間開発部内に「新型コロナウイルス感染症対策協力推進室」が設置されています。通称、「新コロ室」です！新コロ室は、瀧澤室長、平岡・久保倉両副室長以下総勢28名（地域部等他部からの兼務メンバー15名含む）で構成されています。

現在、新コロ室では新型コロナを巡る国内外の最新動向やJICAの取組みに関する情報を収集・整理し、JICA内での共有や外部への発信を行っています。また他の課題部や在外事務所、人間開発部内の各保健チーム等とも連携しつつ新型コロナ関連の技協・無償案件の形成や実施管理なども担っています。

もっと知りたい人は 以下もご確認ください！

- ◆JICA世界保健イニシアティブ特設ホームページ
- ◆JICAの挑戦－世界の命を守る－（外部サイト：YouTube）
- ◆世界が抱える課題への取り組み：保健医療
- ◆新型コロナ特設ページ
- ◆JICA緒方研究所：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連研究

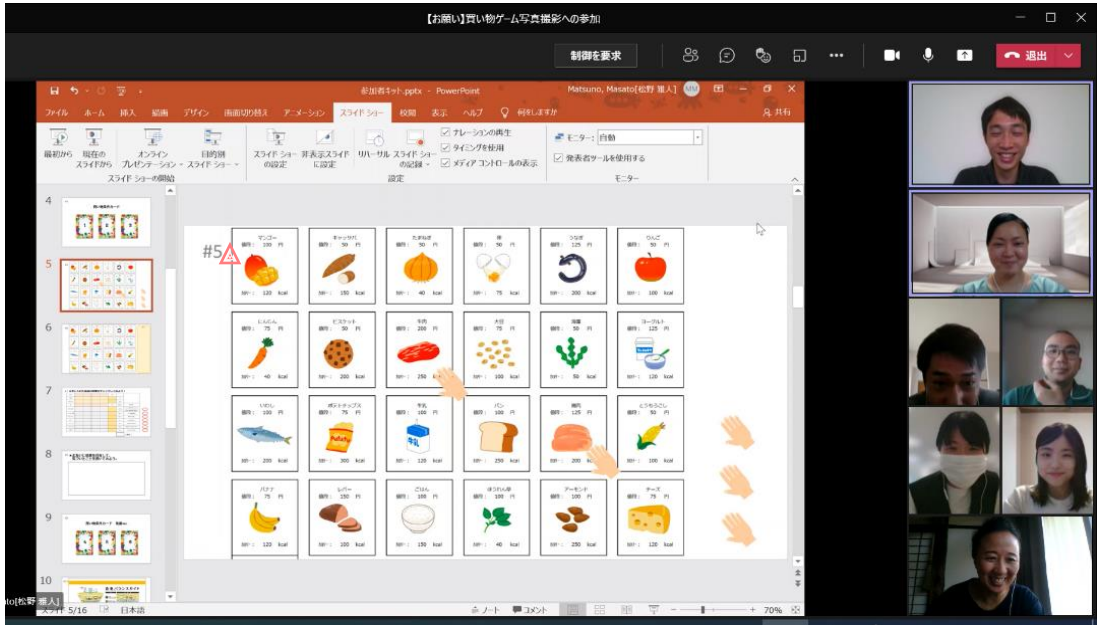
今号のトピック②

栄養サミットの概要およびJICAの取組み

栄養サミット(Nutrition for Growth: N4Gサミット)は、2013年に英国主導で実現して以来、オリンピック・パラリンピックに合わせて開催され、ロンドン、リオデジャネイロに続く3回目として今年12月7日と8日に東京で開催されます。本サミットでは、5つのテーマ(**①健康**:栄養のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)への統合、**②食**:健康的で持続可能なフード・システムの構築、**③強靭性**:脆弱な状況下における栄養不良対策、**④説明責任**:データに基づくモニタリング、**⑤財政**:栄養改善のための財源確保)が掲げられています。

JICA栄養サブネットワーク(SN)広報班では、N4Gサミットを契機に、日本国内の一般市民および民間企業が、①JICAの掲げる「みんなの栄養」のコンセプト(注)、②途上国・日本を含む先進国における栄養課題、③課題に対する取組みを推進する必要性、④途上国の栄養改善におけるJICAの貢献や好事例についての認知度・理解度を高めることを目的に、様々な広報活動を企画・実施しています。今回は、その取組みの一つをご紹介します。

(注)世界が低栄養と過栄養の二重の負荷に苦しんでいる中、先進国の我々の栄養も含めて、全ての人の栄養改善を目指すことが必要とするコンセプト



▲ 栄養SNメンバーによる「買い物ゲーム」体験の様子

「買い物ゲーム、やってみました！」

栄養SNでは、N4Gサミットに向けて、国内の幅広い世代の人々に世界の栄養問題に興味をもってもらえるよう様々な試みを行っています。その一つが、地球ひろばとの共催企画「世界の栄養問題」ワークショップです。「買い物ゲーム」を活用した授業実践を提案するもので、①出前講座講師向け、②教員向けの2回に分けて、オンラインで行いました。(7月29日、31日)。

「買い物ゲーム」は、JICAが独自に開発しグローバルフェスタ2019で紹介した、栄養課題の一面を体感して学べるカードゲームです。参加者が異なる所得の範囲内で400kcalを目安に食材を購入し、栄養バランスの取れた食材を選択することができるのか、さらには「栄養指導」や「現金給付」があればよりよい栄養バランスがとれるのか、実感しながら学ぶことができます。参加者が体験しながら学べる教材を作りたいとのJICA職員の思いがきっかけとなり、有志が検討を重ねながら自然と形作られてできたものです。

ワークショップに先立ち、発案者の一人であるセネガル事務所勤務の松野職員とオンラインでつなぎ、栄養SNメンバーが実際にゲームを体験しました。本来の「買い物ゲーム」では紙のカードを使いますが、今回は新たにオンライン版を試行しました。中には時間を忘れるほどゲームに熱中したメンバーもいました。現在は、限られた授業時間内に児童・生徒が楽しく栄養課題を学べるように、より良い教材にするために奮闘中です。

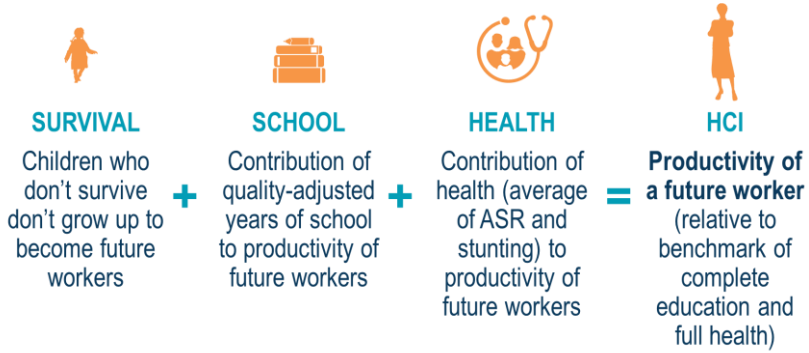
(栄養サブネットワーク広報班　山口舞、上平明美、野村真利香国際協力専門員)

連載：世界銀行のヒューマンキャピタルプロジェクトとJICAの取り組み　第２回

ヒューマンキャピタル指数（HCI）とJICAと世銀の連携

1. ヒューマンキャピタル指数(Human Capital Index：HCI)とは

HCIとは教育・保健・栄養に関連する指標を一つに統合し、各国のヒューマンキャピタルの状況を評価する指標です。今日生まれた子どもが18歳までに獲得できる生産性の平均値を0～1の間で数値化します。例えば、ある国のスコアが0.5の場合は、得られるはずの経済力のうち半分しか実現できないことを意味するわけですが、この場合は国が完全な教育と完全な健康のベンチマークに達した場合、労働者一人あたりの将来のGDPは現在の2倍になる可能性があるということになります。



2. ヒューマンキャピタル指数(HCI)と人間開発指数(HDI)の違い

ヒューマンキャピタル指数(HCI)、人間開発指数(HDI)ともに、国の発展の中心としての人間の能力に必要な示唆を示す一方で、HCIは特に人々に投資することで経済的能力が強化されるようなベンチマークとなります。両指数は互いに補完的ですが、配式の方法が違います。 UNDPが主導した先駆的なHDIは、人間の発達の過程に沿った平均的な成果を図る尺度であり、継続した健康的な生活、知識、そして生活水準などが含まれます。 他方で、世銀の主導するHCIは、生産性と所得水準を持つ人的資本の成果を示します。具体的には、健康と教育の取り組みの将来的な成果を見据えた尺度で、厳格なミクロ計量経済学研究に基づく、個人や国の生産性に対する健康と教育の貢献度を測定した点で革新的と言われています。

3. ヒューマンキャピタル指数(HCI)と持続可能な開発目標(SDGs)の関連

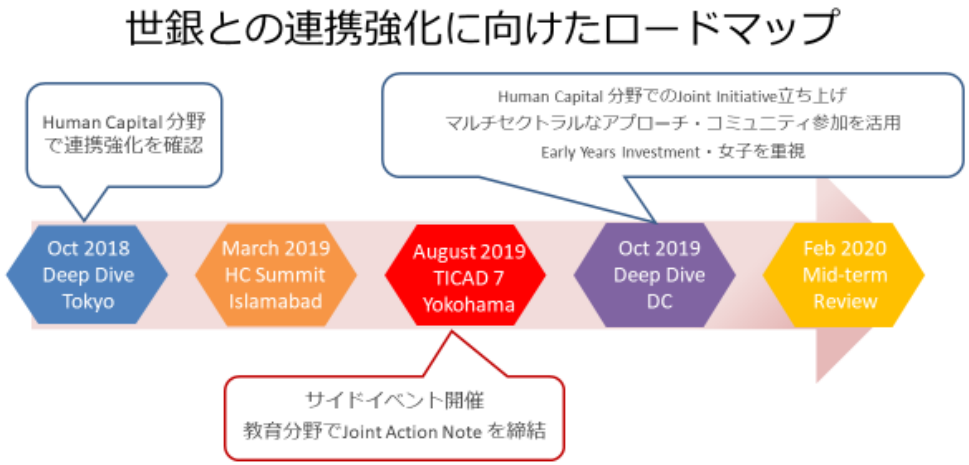
HCIの構成要素(生存、教育、健康)は、2030年までに世界各国が達成しようとしているSDGsの少なくとも以下の3つと直接関連しています。この指数設定の目的の一つは、人的資本を構築し、SDGs達成に向けて、複数のセクターにわたる取り組みにリソースを集約させていくことです。

- 早期の子どもへの介入: HCIの一つの指標である5歳未満児の死亡率は、SDGの目標3.2に関連し、新生児死亡率を1,000人当たり12人、5歳未満児の死亡率を1,000人当たり25人にまで減少させることに貢献します。
- 学習の質で調整した就学年数: この指標は、SDG 4.1が設けた就学年数を指標に導入し、とりわけ公平で質の高い初等・中等教育の修了を保証するものです。初等・中等教育に期待される年の変化をモニタリングすることにより、各国はこの教育目標に向けた成果をモニタリングすることができます。
- 健康: 健康の指標には、成人の生存率と小児期の発育阻害の二つが含まれます。成人生存率は、15歳から60歳まで生存確率を表します。これを改善するためには、早期死亡の原因の削減に取り組む必要があり、SDG目標3.4の達成に貢献します。5歳未満児の発育阻害の改善は、2030年までにあらゆる形態の栄養失調を終わらせることを目指すSDG目標2.2の達成に直接関係します。

4. 世銀とJICAの連携

2018年のJICA－世銀ハイレベル協議では、2017年に世銀が打ち出したヒューマンキャピタルのコンセプトへのJICAの積極的な協力が示され、2019年のハイレベル協議では、ヒューマンキャピタルへの投資を加速するために両機関が共同イニシアティブとして具体的な協力実施をすることを踏み込んで協議し、当面は連携可能性のある国々において協力を進めることとなりました。特に、保健・栄養・教育分野のマルチセクトラルなアプローチ及びコミュニティ参加を通じた共同実施や、早期の子どもへの介入及び女子・女性のエンパワーメントの重視した協力を共同で行っていくことで合意しました。今後、現場レベルでの連携を進め、今年 2月を目途に共同イニシアティブの進捗状況を確認していく予定です（注1）。

（保健第一チーム　芳野あき）



（注1）本記事は2020年1月に作成されたもので、表現を一部変えている部分があります。また本記事の作成日以降、COVID-19の世界的流行を受け、COVID-19対策支援も含めた活動が共同イニシアティブに取り入れられています。現在は、年に一度のハイレベル協議、およびその中間レビューを実施し、共同イニシアティブに係る取り組み状況の確認及び連携の具体化について協議を重ねており、JICA世界保健医療イニシアティブの推進にも資する連携を検討しています。

【参考資料】

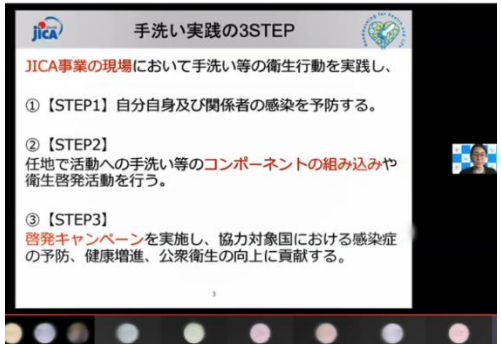
・Story "Investing in People to Build Human Capital"
https://www.worldbank.org/en/news/immersive-story/2018/08/03/investing-in-people-to-build-human-capital
・Article: "The Human Capital Gap" by Jim Yong Kim, Foreign Affairs, June 2018
https://www.foreignaffairs.com/articles/2018-06-14/human-capital-gap?cid=otr-world_bank-the_human_capital_gap-061818

JICA海外協力隊員向け！
新型コロナウイルス感染症予防・啓発研修を開催中！

2020年4月、新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、世界各地で活動していたJICA海外協力隊員は一時帰国を余儀なくされました。しかし同年11月、コロナ禍での再派遣を開始し、ベトナムを皮切りに順次、渡航可能国から再派遣を行っています。また、2021年5月より約1年ぶりの長期春募集を開始しています。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、JICAはこれから派遣される海外協力隊員向けに「新型コロナウイルス感染症予防・啓発研修」をオンラインで行っています。保健医療職種のみならず、すべての隊員の受講を必須とし、任地において感染症から自らの身体を守る予防策、また活動先での感染症の予防啓発活動に利用可能なツールや過去の好事例などを紹介しています。

2021年6月末までに33ヵ国199名の隊員に対し、本研修を実施しました。



▲　本研修（オンライン）の様子

また、2020年11月に再派遣第1陣となったベトナムの隊員が、再赴任後、ベトナム事務所の協力を得て、感染予防啓発動画を作成しています。こちらの動画は「ベトナム事務所Facebook」で公開しています（ぜひ、「いいね！」もお願いします！）。

「JICA 水・衛生啓発ツール紹介のためのプラットフォーム」においても、これまでの衛生啓発ツールなども公開していますので、こちらもあわせてご覧ください。

（元・青年海外協力隊事務局、現・新型コロナウイルス感染症対策協力推進室　吉津智慧）

▲　再派遣第1弾となるベトナム隊員が制作した動画の一コマ

連載：私と虫 第2回

大洋州全域におけるリンパ系フィラリア症の制圧に向けて
― JICAによる息の長い協力とその成果 ―

● フィラリア症とは？

フィラリア症は、寄生虫を原因とする病気で、蚊によって人に感染します。感染すると寄生虫がリンパ管に入り込み、脚や生殖器が腫れて痛みを伴うだけでなく、周囲の偏見や日常動作の難しさなどから労働も困難となり、経済的に苦しくなることも多くあります。

▲　フィラリア症で腫れ上がった左足

フィラリア症は、狂犬病やデング熱などとともに、WHOの定める20の「顧みられない熱帯病（NTDs）」の一つに指定されており、熱帯・亜熱帯の49ヵ国で約9億人が治療と予防のための集団薬剤投与を受ける必要があるとされています。しかし、患者の大半が貧困層であることから、対応が遅れがちでした。これに対しWHOは、1999年から「大洋州リンパ系フィラリア症対策（PacELF）」を開始し、地域からの疾病制圧に向けた取り組みを行っています。

● 30年以上にわたる、JICAの支援

JICAはWHOが支援を開始する以前の1989年から、継続的に保健医療分野のボランティアを大洋州各国に派遣し、予防に関する啓発活動や、集団薬剤投与の実施と薬剤管理、集団薬剤投与のデータ管理などを実施してきました。

2000年からは、WHOと協調する形で大洋州14カ国に対し、感染状況を把握するための検査キットや薬剤の供給を開始しました。2013年から、薬剤についてはエーザイ株式会社により無償供与されています。2017年までに、検査キットは約65万個、薬剤は約3億錠を供給しました。

長期にわたるこれらの支援が功を奏し、大洋州14ヵ国のうちの8ヵ国（クック諸島、ニウエ、バヌアツ、マーシャル諸島、トンガ、パラオ、ナウル、ソロモン諸島）が、フィラリア症の制圧を達成しました。

▲　地域住民への集団薬剤投与の様子
（パプアニューギニア）

2018年からは、残る6ヵ国、キリバス、サモア、ツバル、フィジー、ミクロネシア、パプアニューギニアを対象に「大洋州広域フィラリア対策プロジェクト」を実施しています。

その後、2019年10月には、WHOからキリバスにおけるフィラリア症の制圧が宣言されました。

● 大洋州全域における制圧に向けて

JICAは大洋州諸国におけるフィラリア症制圧に向けた支援の中で重要な役割を果たしており、WHO/PacELF事務局や対象国から高い評価を得ています。これらの活動を、地域の人々の生活向上に貢献する重要活動と位置づけ、今後も協力を継続していきます。

（執筆当時保健3チーム・現ザンビア事務所
田中沙恵）

▲　集団薬剤投与に関するトレーニングを受けた保健局の職員ら。左から2番目が、關原 誠 長期専門家
（パプアニューギニア）

メキシコ高齢化セミナー報告

2020年2月24日、メキシコ日系帰国研修員同窓会（ASENIM）とメキシコ国立老年医学研究所（INGER）が「第3回日本・メキシコ健康長寿フォーラム（高齢化セミナー）」をメキシコシティで共催しました。同セミナーは2015年よりASENIM、INGERが定期的に開催し、急速な高齢化を迎えるメキシコの将来を見据え、高齢化分野で課題先進国である日本の取組が紹介される中、**コミュニティを基盤とした高齢者ケアの包括システムを検討する場として位置づけられてきました。**

同セミナーは、メキシコ政府機関、学術機関、市民団体、そしてPAHO（汎米保健機構）代表部などから、160名を超える参加者が集まり、同時にPAHOの通信回線を通じて中南米全域にライブ配信されました。

今回は順天堂大学の湯浅資之先生、佐久総合病院の北澤彰浩先生を迎え、コミュニティを基盤とした介護モデル構築をテーマとした発表が行われました。湯浅先生より、日本政府はEBPM（エビデンスに基づく対策立案）を推進しており、政策効果の測定に際し民間企業や大学が協力していること、順天堂大学はタイ政府（公衆衛生省）と協力し、同国高齢化対策のEBPMモデル研究（IT、AI技術を導入した介護サービス効果の計測）を開発中で、今後はアジア諸国を中心にアフリカ、中南米地域とも持続可能な高齢者社会実現に向けたモデル構築を行っていきたい旨発表がありました。北澤先生より、佐久総合病院で若月医師が始めた出張診療や住民参加型の健康増進活動（予防活動）など、日本におけるプライマリ・ヘルスケア（PHC）の先駆けとなった同病院の地域医療の取組を紹介しました。地域包括ケアシステムを「高齢者が自分らしく最期まで希望するように生きられる町づくり、地域づくり」と定義付け、医療従事者と地域住民が寄り添う形で高齢者を支える活動を提案しました。

メキシコの65歳以上の人口は7%（2018年）ですが、30年後には25%に達すると予測され、今後急速に高齢化が進む国の一つです。高齢者の要介護者のほぼ99%は家族による介護を受けており、家族による介護疲れや老々介護、老人虐待やネグレクトが現時点で社会問題として取り上げられ、今後は地域で高齢者を支える仕組み作りが求められています。

今回のセミナーにおいて、以下のニーズや課題が明らかになりました。

- チーム医療の実践: 高齢者の抱える問題を包括的にとらえ適切な医療・ケアサービスを提供できる人材の不足、現場における多職種連携（医師、看護師、理学療法士、ヘルスプロモーター、ソーシャルワーカー、栄養士等）の推進の必要性
- コミュニティを基盤とするPHCの推進: 住民自らが主体となり、健康の問題について考え、高齢者を地域で支える仕組み作りの必要性
- エビデンスに基づく介護モデル構築: 公的医療保険制度の分断化により、各機関が提供するサービスが重複し、地域住民のニーズを取り込んだ包括的な介入・支援に至っていない。高齢者への効果的な介入・支援に対する評価（定性的、定量的）の実施と現場へのフィードバックの必要性

この度は、メキシコの保健セクターを代表する機関（メキシコ社会保険庁、国家公務員共済庁、家族統合発展システム）が一同に会し、各機関が提供する介護サービスについて発表し、今後の介護の在り方について意見交換することができました。その結果、1985年と2017年に大地震を経験した被災国メキシコの社会基盤を活かし、コミュニティを基盤とする防災活動の構造と一体化させる案も挙げられています。今後、同国の政府、学術機関、市民団体の間で「コミュニティに基盤をおいた介護モデル」の構築に向けた議論が深まり、共通のモデル構築がなされることを期待します。

（メキシコ事務所　荒木映自）

ゆくひと くるひと

2年間お世話になりありがとうございました。今後も広報タスクは保健医療分野の最新トピックを皆様に発信して参ります。引き続きどうぞよろしくお願い致します。　（南アジア部南アジア第二課　岡崎優実）

2021年5月に保健1G1Tに着任し、広報タスクに加わりました。世の中が目まぐるしい速度で変化していく中で、私たちもそれに応じた業務を展開できるよう学び続ける必要があると感じています。私自身、保健分野、広報分野に関わるのは初めてではありますが、皆さんにとって、読むのが負担にならず、かつ、為になる広報ができるよう、努めてまいります。これからどうぞよろしくお願いします！！！　（保健第一チーム　佐藤未来）

昨年4月に新入職員として入構し、広報タスクに加わりました。新型コロナウィルス感染流行等を踏まえ、今後さらに重要性が増す国際保健分野の最新の動向やトピックスについて、積極的に学び、情報発信したいと思います。これからどうぞよろしくお願い致します。

（保健第一チーム　加島里菜）

20年7月に入構し、本年度から広報タスクの活動を本格的に開始しました。広報の経験はほとんど無いのですが、無いからこその自由な発想で、メンバーの皆さんとわいわい意見交換しながら少しずつ進めていければと思います。こんなネタあるよ、こんなテーマも特集してなど、アイデアお待ちしております。よろしくお願いいたします(^^)/　（保健第一チーム　水野美結）

今年4月に新入職員として入構し、広報タスクに加わりました。新型コロナウイルス感染症の流行により保健医療分野への関心が高まる中、世界で何が起きているのか、自ら積極的に学び、発信していきたいと思います。読んでいただいた皆様に少しでもためになったなと思っていただけるようなコンテンツを作成していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（保健第三チーム　古田彩乃）

保健だより第52号をもちまして、人間開発部を異動したのですが、この度、戻ってきました！新型コロナウイルスの感染拡大により、社会はもちろんJICAの事業も大きく変わってきています。だからこそJICAの保健医療事業について、みなさまにわかりやすく、そして楽しい記事をお届けできるよう、努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（新型コロナウイルス感染症対策協力推進室　吉津智慧）

2020年7月に南アジア部から人間開発部へ異動し、今年度は広報タスクのメンバーとしても活動しております。保健分野に携わることが初めてであり、執務参考資料や資料を片手に勉強する日々ですが、広報タスクを通して私自身も学んでいければと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます！

（保健第二チーム　石立郁美）

2021年1月より新コロ室に勤務しております。直近はタイで高齢化技プロの専門家をしていました。現場＆外部人材として培った目線を忘れず、誰にでもわかりやすく、興味を頂いて頂けるようなものを作っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（新型コロナウイルス感染症対策協力推進室　米田裕香）

昨年四月に新入職員として入構し、広報タスクに加わりました。それからあっという間に一年が経ちましたが、その間、担当案件や勉強会などを通じて、皆さまから多くのことを学ばせていただいております。私自身、保健医療分野には初めて接しているところですので、「誰にとっても分かりやすく」という視点を大切に、情報発信できたらと思います。JICA内外を問わず、一人でも多くの方々にご関心を持っていただけるよう努めますので、引き続き何卒よろしくお願いいたします。　（保健第四チーム　倉澤碧）

保健グループ　What's Up（2021年4月～2021年7月）

最近の保健グループス関連の動きを掲載します！

【技術協力】

- エジプト「UHC政策実施能力強化プロジェクト」（2021年4月、R/D締結）
- スーダン「ユニバーサルヘルスカバレッジ達成のための国民健康保険人材開発プロジェクト」（2021年3月、専門家派遣開始）
- ケニア「保健政策アドバイザー」（2021年5月、専門家派遣開始）
- ブータン「新型コロナウイルス検査能力および保健医療サービス提供体制強化プロジェクト」（2021年5月、R/D締結）
- エクアドル「新型コロナウイルス研究能力向上プロジェクト」（2021年5月、R/D締結）
- モンゴル「新型コロナウイルス治療・予防体制及び母子のための医療サービス提供体制改善プロジェクト」（2021年5月、R/D締結）
- ザンビア「ルサカ郡一次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト」（2021年5月、専門家派遣開始）
- モザンビーク「母子栄養サービス強化プロジェクト」（2021年5月、専門家派遣開始）
- シエラレオネ「ワクチンコールドチェーン強化プロジェクト-新型コロナウイルス予防接種実施支援-」（2021年5月開始）
- シエラレオネ「新型コロナウイルス感染症流行下におけるオラドゥリング子ども病院に対する緊急支援プロジェクト」（2021年6月開始）
- パキスタン「パンジャブ州母子保健強化プロジェクト」（2021年6月、R/D締結）
- モンゴル「学校給食導入支援プロジェクト」（2021年6月、R/D締結）
- セネガル「保健行政アドバイザー」（2021年6月、専門家派遣開始）
- インドネシア「感染症早期警戒対応能力強化プロジェクト」（2021年6月、専門家派遣開始）
- ホンジュラス「保健サービスネットワーク（RISS）を通じた保健サービスデリバリー強化プロジェクト」（2021年6月、R/D締結）
- パプアニューギニア「院内感染対策を通じた基礎的医療サービス向上プロジェクト」（2021年7月、R/D締結）
- カンボジア「新型コロナウイルス対策能力向上プロジェクト」（2021年7月、R/D締結）
- ブルキナファソ「国立公衆衛生研究所新型コロナウイルス対応能力強化プロジェクト」（2021年7月開始）

【無償資金協力】

- ネパール「公立高次病院医療器材整備計画」（2021年4月、E/N, G/A締結）
- マラウイ「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援計画」（2021年6月、G/A締結）
- パレスチナ「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援計画」（2021年6月、G/A締結）

【国際会議等】

- 第2回「母子手帳国際会議」ウェビナー開催(2021年5月27日)
- コロナ禍における適切な乳幼児健診の実施に向けたオンラインセミナー開催（インドネシア保健省や保健局スタッフ等が参加、2021年4月28日）

編 集 後 記

保健だより55号では、「JICA世界保健医療イニシアティブ」・「栄養サミットとJICAの取組み」についての特集記事を掲載しましたが、いかがでしたでしょうか。新型コロナウイルス感染症の拡大は、JICA事業のみならず世界的に大きな影響を与えました。この1年で事業の仕方も大きく変わったと実感しています。今後の保健だよりでは、そういった変化もタイムリーに発信して行ければと思っておりますので、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。　（保健第二チーム　石立）

保健だよりで取り上げてほしい特集テーマを募集します！
人間開発部 kadaishien-ningen@jica.go.jp　までお寄せください！
ご意見ご感想もお待ちしております！